

外科医が取り組む 薬局改革

～日本在宅薬学会活動レポート～(1)



◆狭間研至
昭和44年大阪生まれ。平成7年
大阪大学医学部卒業後、同付属
病院、大阪府立病院(現大阪府
立急性期総合医療センター)な
どを経て、12年大阪大学医学
医学系研究科職器制御外科(博
士課程)に入学し、16年同課程
修了。医師・医学博士・外科専
門医・呼吸器外科専門医。15
年4月から「ハザマ薬局」を運
営するアルメディコ(株)代
表取締役に就任し、実家の薬局
経営を受け継ぐ形で医師の立場
からの意欲的な薬局経営に乗り
出すとともに、20年4月には有
限中間責任法人「薬剤師あゆみ
の会」理事長も務めるなど多方
面で精力的に活躍中。



バイタルサインへの流れ
この3年ほどの間、私は必ず理解・習得す
ることができます。いわ
うことで、バイタルサインの知識や手技の習得
は薬剤師にとって一つのツールでしかないとい
うことです。バイタルサインは、医学部・看護学部をは
じめとして医療系の学部では、学生が講義で学び身
に触れてはならない」とが目的化してしまった
こと。しかし、薬剤師は、いわゆる「都市伝説」もあり
て、非常に大きなハードル込んでしまうケースが少
なくありません。そこで、私は、この一年半ほどは思案
しているところです。

バイタルサインの次にくるもの
9月29日に私自身47回目で、6年製薬教育の中
で、当たり前のように行われるようになつてき
ました。しかし、薬剤師にと
っては、これらの手技の習得
が非常に大きなイベント
が誕生し、それぞ
れの地元で薬剤師による
セミナーも開催しま
した。現在77名のディレ
クターが誕生し、それぞ
れの地元で薬剤師による
セミナーも開催しま
した。しかし、これは当然の
ことながら、医師である
私は、私が伝えられる分野では
在宅薬支援薬局研究
会から日本在宅薬学会へ
の変更が大きな転機にな
るのではないかという思いを強
くしています。

受講者は飛躍的に伸び今後さらなる広がりも

薬剤師の知識活かしたアセスメントを

はじめに

みなさま、こんにちは。
狭間研至です。前回お伝えしたとおり、一般社団法人在宅薬学会活動レポートとしてお伝えしたいと思います。

薬剤師のバイタルサインへの流れ
本会の活動は、もともと会の主催でバイタルサインやフィジカルアセスメントに関する講習会を開いています。しかし、これまで導入された薬学教育で、そして準公的に催されていますが、私が進めていくべきのかと最初の講習会を開催したとき、そこにはまだ多くの人がいました。しかし、「アブナイ」講習会でして、なんとか業界に広く認知してもらいたいと思います。

この感想は、弊社の薬剤師企業が主催するには違和感があります。しかし、一私で参考して参画してきた一般社団法人薬剤師あゆみの会(一般社団法人薬剤師認定制度認証機構の認定法人)の活動を見ていて持つべきだと思いま

た。しかし、私は、これまで大きな感動を感じました。そこで、浜松で開催された第45回日本薬剤師会学術大会での発表を見

現在までにディレクター7人、受講者約1200人にのぼる



現役外科医が、医療の現場での体験と
薬局経営者としての視点から
提言する新しい医療のあり方——
在宅医療への先進的な取り組みで
注目をあつめる著者が、
薬局・薬剤師職能のさらなる可能性への
思いをつづる「原点の一冊」。

外科医、薬局に帰る

[改訂第二版] 超高齢社会における
新しい医療環境を目指して

[著] 狹間研至

医師・医学博士
アルメディコ株式会社 代表取締役社長
一般社団法人在宅薬支援薬局研究会 理事長

B6判 88頁 定価800円(税込)

発行: 株式会社 薬局新聞社
本書のお求めは … 書籍係 Tel.03-3663-1921
<http://www.yakkoku-shimbun.co.jp/>

